中学歴史プリント（過去問類似）
平安時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 藤原道長が、当時の政治体制において強大な権力を維持し続けることができた理由として、適切な仕組みはどれですか。（2019年　福岡県公立入試　類似）

1. 自分の娘を天皇と結婚させ、その間に生まれた皇子を次の天皇に立てて、自らが外祖父として後見したため。

2. 唐の律令を模範とした新しい法律を制定し、能力に関わらずすべての人を役人として登用したため。

3. 京都の東山に山荘を建てて芸術や文化を保護し、武士や僧侶たちの支持を広く集めたため。

4. 海外との貿易を独占して経済力を高め、その財力を用いて各地に強力な軍隊を派遣したため。

問2 日本の歴史事項をまとめた年表において、11世紀の後半に「白河上皇が位をゆずった後も政治を行う体制を始めた」という記述がある場合、その政治体制の説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2021年　鹿児島県公立入試　類似）

1. 藤原氏が娘を天皇の后にすることで、外戚として実権を握る政治

2. 天皇が位を退いて上皇となり、摂政や関白の影響を受けずに自ら行う政治

3. 将軍が幕府を開き、守護や地頭を任命して全国の土地を支配する政治

4. 律令に基づき、中央から派遣された国司が地方の行政を直接担う政治

問3 平安時代に発達した建築様式である「寝殿造」について、その成立の背景や特徴を説明した文として最も適切なものはどれか。（2014年　和歌山公立入試　類似）

1. 遣唐使の停止によって大陸との交流が制限されるなか、日本の気候や貴族の好みに合わせた独自の文化として成立した。

2. 鎌倉時代に武士が力を持つようになり、実用性と機能性を重視した住居として全国に普及した。

3. 室町時代に禅宗が広まったことで、精神修行に適した簡素で機能的な空間を追求して生まれた。

4. 江戸時代に幕府が身分制度を確立した際、貴族の権威を示すために格式高い装飾を施した様式として考案された。

問4 平安時代に、万葉仮名から「かな文字」へと表記方法が変化したことが、当時の社会や文化に与えた影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年　長野県公立入試　類似）

1. 日本独自の文字が作られたことで、日本人の感情や生活を表現しやすくなり、物語や日記などの国風文学が発展した。

2. かな文字が発明されたことにより、中国から伝わった漢字は一切使われなくなり、公文書もすべてかな文字で書かれるようになった。

3. かな文字の普及によって、それまで漢字を学んでいた貴族たちが学問を捨て、武士による独自の文化が先行して発達した。

4. かな文字は仏教の経典を日本語に翻訳するために作られたため、寺院を中心とした宗教文化が庶民の間で急速に広まった。

問5 平安時代の中期に、藤原氏が代々受け継いだ「摂政」と「関白」という官職について正しく説明したものはどれですか。（2016年　香川公立入試　類似）

1. 天皇が幼少のときには摂政として、成人した後には関白として、政治の実権を握った。

2. 天皇が位を譲り上皇となった後も、摂政や関白として引き続き政治の実権を握った。

3. 地方の反乱を鎮圧するために、武士のリーダーが摂政や関白に任命されて実権を握った。

4. 外国との貿易を独占するために、有力な貴族が摂政や関白となって経済の実権を握った

問6 8世紀末にあたる794年、桓武天皇が都を平安京へと移した主な理由として、当時の政治的背景に基づいた説明として適切なものはどれですか。（2018年　長崎県公立入試　類似）

1. 仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため

2. 平氏による武家政権を樹立し、海外貿易を活発にする拠点とするため

3. 元（モンゴル帝国）による襲来に備え、防御に適した内陸部に都を構えるため

4. キリスト教の布教を制限し、幕府による全国支配を強固にするため

問7 平安時代の政治の変遷を示す資料において、藤原道長や頼通の時代から約100年後の状況として、白河・鳥羽・後白河の3名に共通する、政治の実権を握る上での立場を何というか。（2022年　大分県公立入試　類似）

1. 将軍　**2.** 執権　**3.** 関白　**4.** 上皇

問8 平安時代末期の政治の流れをまとめた年表において、1156年の保元の乱に続いて「平氏が政治の実権を握る直接のきっかけとなった、1159年の出来事」に当てはまる名称として正しいものはどれか。（2015年　富山県公立入試　類似）

1. 平治の乱　**2.** 承久の乱　**3.** 壬申の乱　**4.** 応仁の乱

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **自分の娘を天皇と結婚させ、その間に生まれた皇子を次の天皇に立てて、自らが外祖父として後見したため。**	摂関政治の仕組みは、天皇との血縁関係を基礎としています。道長は4人の娘を次々と中宮や皇后にし、生まれた子（孫）を天皇に即位させることで、天皇の母方の親戚（外戚）としての地位を固め、政治の決定権を握り続けました。
問2	**答え 2** **天皇が位を退いて上皇となり、摂政や関白の影響を受けずに自ら行う政治**	院政は、藤原氏が摂政や関白として政治を主導した「摂関政治」を打破するために、白河上皇によって確立されました。上皇は天皇の在位中とは異なり、摂関家との血縁関係を重視する仕組みから自由な立場で政治を行うことができました。この体制はその後、鳥羽上皇や後白河上皇へと受け継がれ、約100年間にわたり政治の主導権を握ることとなりました。
問3	**答え 1** **遣唐使の停止によって大陸との交流が制限されるなか、日本の気候や貴族の好みに合わせた独自の文化として成立した。**	894年に遣唐使が停止された後、それまでの中国文化を消化・吸収した上で、日本の風土や生活習慣に合わせた「国風文化」が形作られました。住居においても、中国風の堅苦しい形式から離れ、貴族の優雅な生活や日本の気候に適した「寝殿造」という独自の様式が生まれ、定着していきました。
問4	**答え 1** **日本独自の文字が作られたことで、日本人の感情や生活を表現しやすくなり、物語や日記などの国風文学が発展した。**	かな文字という日本独自の文字が成立したことは、日本の文化に大きな変化をもたらしました。漢字だけでは表現しきれなかった微妙な感情や日常の風景が記述できるようになり、『源氏物語』のような物語や、『枕草子』のような随筆、日記文学といった国風文化を象徴する作品が多く生まれました。
問5	**答え 1** **天皇が幼少のときには摂政として、成人した後には関白として、政治の実権を握った。**	藤原氏は、天皇が幼いうちは「摂政」として、成人してからは「関白」として補佐することを口実に、政治の重要な決定権を独占しました。この体制を摂関政治と呼び、藤原道長や頼通の時代に全盛期を迎えました。天皇が引退した後に実権を握る「院政」や、武士による「武家政治」とは区別する必要があります。
問6	**答え 1** **仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため**	奈良時代（8世紀の大半）は、平城京を中心に仏教を厚く保護する政治が行われましたが、次第に東大寺などの僧侶が政治に強く関与し、天皇の権威を脅かすようになりました。桓武天皇はこうした仏教勢力の影響を断ち切り、政治を刷新して天皇の力を回復させるために、784年の長岡京遷都を経て、794年に平安京へと都を移しました。
問7	**答え 4** **上皇**	白河・鳥羽・後白河の3名は、いずれも天皇の位を退いて「上皇」という立場になり、自分の居所である「院」において政治を行いました。この時期は、天皇よりも上皇が強い権力を持つことが通例となりました。
問8	**答え 1** **平治の乱**	保元の乱から3年後の1159年に起きた平治の乱は、源氏と平氏の争いにおける決定的な転換点となりました。この乱によって源氏の勢力は一時的に衰退し、勝利した平清盛が武士として初めて中央政府の要職に就く道が開かれました。承久の乱は鎌倉時代、壬申の乱は飛鳥時代、応仁の乱は室町時代の出来事です。